

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 生徒の「社会と調和し、自立して生きる力」を育み、地域から信頼される学校

生徒に以下の力をつけるために、多様な学びを実践し、地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育を行うことで、総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現する。

- (1) 自己を高める力（確かな学力・ねばり強さと未来に希望を持つ志）の育成
- (2) 人とつながる力（人とつながる喜びを知り、自分を大切にするとともに他の人も大切に、周囲と協力し合う力）の育成
- (3) 社会に貢献する力（地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力）の育成

## 2 中期的目標

## 1 学習活動の充実

- (1) エンパワメントスクールの特徴を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、全教員が授業力向上に取り組む。
- (2) エンパワメントスクール（総合学科）として、選択科目及びエンパワメントタイムの学習内容の充実と新学習指導要領における教育活動の充実を図る。

\* 生徒学校教育自己診断における「授業わかりやすく楽しい」肯定的評価（授業満足度）を令和6年度には70%以上とする。

（R1；59.3%、R2；74.7% R3；69.7%）

## 2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり

- (1) 生徒一人ひとりを大切に生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立を図り、中途退学を防止する。  
\* 中途退学率を令和6年度には5%以下とする。（R1；6.2%、R2；4.1%、R3；5.1%）
- (2) 生徒が安心して学校生活を送れるよう、保護者との連携を強め、担任・学年団、生徒指導部、教育相談等が連帯して、組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。
- (3) 各中学校との連携を密にし、中学時の状況を把握し、個々の生徒指導に活かす。
- (4) スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、キャリア教育コーディネーター（CC）との連携を密にし、教育相談体制を充実させるとともに、随時ケース会議及び拡大教育相談委員会を開くなど、支援が必要な生徒の状況を関係者が共有し、計画的に生徒支援や進路支援をしていく。

\* 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価を令和6年度には70%以上とする。（R1；64.8%、R2；74.0%、R3；69.4%）

- (5) 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。
- (6) 人権教育を推進するために、教職員が校内校外の研修に参加し、さまざまな人権教育の理念を学び共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努めることにより人権教育を推進する。
- (7) 外国にルーツを持つ生徒が多い学校として学習保障と進路保障支援を行うとともに、多文化理解教育を推進し「ともに学ぶ」学校づくりを進める。  
\* 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価を令和6年度には80%以上とする。（R1；68.8%、R2；87.9%、R3；76.9%）

## 3 キャリア教育・進路指導の充実

- (1) 卒業後をみすえた進学・就職支援（勤労観・職業観・社会人基礎力を養い、将来の自分の生き方に展望を持つための働きかけ）を積極的に行う。
- (2) 学ぶ、働く、自分らしく生きることの大切さを理解し自己肯定感を育めるよう、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・進路指導を実践する。
- (3) インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることにつながり合い、学び合い、助け合いながら組織としての成長を図る。

\* 進路決定率を令和6年度には85%以上とする。（R1；82.9%、R2；85.2%、R3；84.5%）

\* 生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方」肯定的評価を令和6年度には85%以上とする。（R1；75.7%、R2；87.5%、R3；82.5%）

## 4 エンパワメントスクールの教育活動の充実と積極的な情報発信

- (1) エンパワメントスクールとして教育活動を充実させるように、教職員が一丸となって取り組む。  
\* 生徒学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」肯定的評価（学校生活満足度）を令和6年度には70%以上とする。  
（R1；65.4%、R2；74.6%、R3；64.9%）  
\* 生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価（エンパワメントスクール満足度）を令和6年度も80%以上を維持する。（R1；72.7%、R2；86.4%、R3；78.5%）
- (2) 学び直しやデュアルシステムや人権教育をはじめとした学校のさまざまな教育内容や魅力等を、保護者、中学校、地域、府民に向けて積極的に情報発信し、学校イメージの向上を図る。

## 5 教職員の働き方改革を進める

- (1) ノークラブデー・全庁一斉退庁日・夏冬の学校休業日の実施を徹底する。
- (2) 業務の精選を行い、効率的な学校運営に努め、超過勤務時間の縮減を図る。

\* 時間外勤務の年間平均時間を令和6年度には320時間以下とする。（R1；420時間5分、R2；325時間47分、R3；361時間52分）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答数は減少した(513名⇒460枚)</li> <li>・4点満点に換算したポイント(P)の総平均は大きく上昇(2.92P⇒3.04P)、質問27項目中25項目のポイント(P)が上昇、肯定的評価は全27項目全てで上昇した。</li> <li>・評価の高い設問は、「4授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」(3.28P)「7生徒の興味・関心・適性・進路に応じて選択科目が選べる。」(3.25P)「12命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(3.21P)「13HRなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」(3.20P)「21授業などでコンピュータやプロジェクトを活用」(3.34P)「22デュアル実習等他の学校にない特色」(3.36P)「2530分授業は学びなおしに役立つ」(3.38P)「27学校は1人1台端末を効果的に活用」(3.23P)で、低い設問は、「16クラブ活動の活性化」(2.71P)で、低いが昨年より上昇しているのは「8先生の指導は納得できる」(2.88P)「11担任以外の相談相手」(2.87P)「15生徒会活動が活発」(2.79P)「15生徒会活動が活発」(2.66P)「18校長の考えや話は興味深くわかる」(2.68P)「保護者や地域の人とかかわる機会がある。」(2.48P)であった。</li> <li>・肯定的評価が著しく上昇した項目は、「先生の指導に納得できる」「人権について学ぶ機会がある」「校長先生の考えや話は興味深くよくわかる」「渡日生との交流や多文化理解の機会が多い」であった。</li> </ul>	<p><b>第1回(7月9日)</b></p> <p><b>【テーマ】魅力ある学校づくり～スクールミッション・ポリシー策定に向けて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒を中心として一貫した教育がなされているのは良いこと。柱は「デュアルシステム」や「人権教育」。策定に関して、先生方が当事者意識を持つことが大切。昨年度の話合い(教員自主研修)はよかった。『面倒見のいい学校』という保護者にも伝わる方向性が共有できた。</li> <li>・学校も会社も同じ。入学したい学校、働きたい会社、先生方も生徒も誇りを持てるような学校を自分たちで創るということを意識してほしい。子どもだけでなく、大人も学ぶことが重要。</li> <li>・地域と学校がともに生徒を育てるデュアルシステムは布施北の大きな特色。維持発展のために、今後も皆で応援したい。</li> <li>・学力保障も人権教育のひとつ。「色々なタイプの生徒を受け入れて育てている」というメッセージが保護者や生徒にもっと伝わるように工夫してほしい。担任だけでなく、学校全体で見えていただけると知ると保護者も安心できる。</li> </ul>

府立布施北高等学校

<p>・本校の特色である、基礎基本の学力の育成、人権教育、授業の工夫、デュアルシステムを中心としたキャリア教育、生徒指導、1人1台端末等ICT活用が実感される結果となった。</p> <p><b>【保護者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答数は増加した（189名⇒203名）</li> <li>・4点満点換算ポイント（P）の、総平均はやや減少した。（3.20P⇒3.16P）</li> <li>・評価の高い設問は「16デュアルシステム等学校の特色や情報提供の努力」（3.39P）「18外国ルーツのある生徒やその保護者に十分な支援」（3.43P）「19デュアルシステムの実習などは子どもにとってよい経験」（3.65P）「20エンパワメントスクールに入学してよかった」（3.57P）「1人1台端末の効果的な活用」（3.37P）で、低い設問は「2自クラスが楽しい」（2.83P）「3授業が楽しくわかりやすい」（2.70P）、低いのが微上昇しているのは「1子どもは学校に行くのが楽しみ」（2.89P）であった。</li> <li>・肯定的評価が上昇した設問は「9子どもの心身の健康について、相談しやすい雰囲気」「10いじめについて困っていることがあれば真剣に対応」「12HPを見ることがある。」</li> <li>・コロナ禍で、PTA活動や学校行事への保護者の参加一部制限等、教育活動全般で一部自粛を継続している影響もあると考えられるが、設問2、3の評価については今後の課題である。</li> </ul> <p><b>【教職員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回答数は減少した（54名⇒46名）</li> <li>・4点満点換算P総平均はやや上昇（2.62⇒2.71P）、肯定的評価は全34項目中24項目で上昇した。</li> <li>・評価の高い設問は「29デュアル等地域連携を教育活動にいかしている」（3.37P）「望ましい勤労観・職業観をもてるような系統的なキャリア教育」（3.22P）「教育活動に必要な情報について生徒・保護者・地域に周知」（3.20P）で、評価が低く2年連続減少している設問は、「適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担・教職員が意欲的に取り組める環境」（2.07P）、低い設問は「校長のリーダーシップ」（1.98P）「理念や学校運営についての考え方」（2.13P）であった。</li> <li>・肯定的評価が著しく上昇した項目（18.7%～29.6%）は、「7カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」「8問題行動に対する組織的な対応」「9学級担任以外の相談相手」「14学校行事の工夫・改善」「生徒会活動を通じて生徒が民主的手続きを経て主体的に活動できるよう学校全体で支援」「27校内研修が教育実践に役立つような内容」であった。</li> <li>・教職員が、3本柱（学びなおし、人権教育、キャリア教育）を十分に理解して教育活動に取り組んでいる成果や、生徒一人ひとりに寄り添いながら生徒の自己実現を支援しようとする姿勢の向上が表れている。一方で、多忙感を抱く教職員もおり、業務分担や意見交換を進め意欲を高める工夫が必要である。</li> </ul>	<p><b>第2回（11月18日）</b></p> <p><b>【令和5年度使用教科用図書採択について】承認</b></p> <p><b>【授業見学】</b> 授業内容：「大人と子どもの違いについて考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のめあてが明瞭。大人と子どもの違いについて、生徒が自分の生活に引き寄せながらしっかりと考えて、発言できていた。生徒の声をさらに授業につなげてほしい。教科とは違い、自分の人生について考えられる良い授業だった。ロールプレイが面白かった。</li> </ul> <p><b>【スクール・ミッションについて】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生も良い学校と言っている。これまで大事にしてきた「厳しくも丁寧に」生徒に寄り添う教育、「人権」・「多文化」・「デュアルシステム」等をきちんと伝えるような内容にすべき。先生方皆で再定義する取り組みは良い。学校経営計画「めざす学校像」の『生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校』やHPの表現を引用し、ワクワクするような文言にしてほしい。</li> <li>・府立学校の再編整備で統廃と学校がある。布施北は頑張してほしい。高校選択の際には、どのような力がつくかが大切。今の生徒は自信や自尊心が低い。布施北に行ったら、自信がつく、個性が引き出される、そういうのが含まれていたらいいと思う。地域の受け皿としての役割を担ってきた強みや、地域の方が応援してくれているという強みを武器にしてほしい。</li> </ul> <p><b>第3回（2月4日）</b></p> <p><b>【令和5年度学校経営計画・令和4年度学校経営計画の評価について】承認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度分に追記された「多様性」や「安心して学ぶ場」などは、とても評価できる。</li> <li>・学校間の連携がいい。小中学校の児童・生徒がお兄さん・お姉さんを見て、布施北に行きたいと思う。地元で育ち、働き、地域貢献につながる。</li> <li>・生徒評価が全体的に上昇。先生方の取り組みが生徒たちの評価につながっており、先生方も報われている。</li> <li>・働き方改革が進み、時間外勤務が減っている</li> </ul> <p><b>【学校教育自己診断、エンパワメントスクール3年次アンケート、総合学科卒業生アンケートの結果について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デュアル関係の項目が上昇し90%以上が肯定的である。学び直しは他校でも行っているが、デュアルシステムは布施北の特色。アイデンティティーを大切にしてほしい。</li> <li>・生徒から見た教員間の関係と先生から見た教員間の関係に差がある。</li> <li>・保護者の回答率の高さはPTA活動とも関係しているのでは。</li> <li>・デュアル実習参加生徒が母数か、そうでない生徒も含めた数が母数かで、数値が変わる質問項目があるので、該当者のみを対象にする等が必要。職場見学とデュアルのダブルパーレルとなっている項目もある。</li> <li>・相談室や生徒の話を聞く雰囲気づくりは評価できる。</li> <li>・デュアル実習校内研修の発表会がよかった。生徒同士が言葉のキャッチボールができていた。どのような取り組みをしたら、それにつながるか考えるのもよいと思う。</li> </ul>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[令和3年度値]	自己評価
1 学習活動の充実	(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備と、生徒が「わかった」「楽しい」と思う授業展開	(1) ア 授業規律を一致して指導し、授業を通じた生徒指導を行うことで、落ち着いた授業環境を作る。 イ モジュール授業や習熟度別授業を中心に、授業の楽しさを体験させ、基礎基本の学力を身につけさせる。 ウ ユニバーサルデザインの観点から、生徒が集中して学べる学習の取組を進める。	(1) ア ・授業中における懲戒生徒数10人以下継続 [6人] イウ ・生徒学校教育自己診断「30分授業」肯定的評価80%以上継続[73.7%] ・生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定的評価（授業満足度）70%以上[69.7%]	(1) ア 年々要求水準が高まる中、概ね一致した指導ができており、学習環境が向上している。授業中における懲戒生徒数6人（○） イ 生徒のニーズに合わせて、モジュール授業や2・3年生の習熟度別授業を実施し、生徒満足度が80.4%に上昇した。（○） ウ ユニバーサルデザインの観点で授業プリントやパワーポイントを作成し、生徒が集中して学べる取り組みが進んでいる。 ・生徒学校教育自己診断「30分授業」肯定的評価89.7%に上昇（◎） ・生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定的評価（授業満足度）73.9%に上昇（◎）
	(2) エンパワメントタイムにおける授業内容の充実	(2) ア 1人1台端末の積極的活用等、エンパワメントタイムをはじめとした参加体験型（主体的、対話的、深い学び）授業を充実させる。 イ 1年生のインターンシップと2・3年生のデュアル実習を中心としたエンパワメントタイムにおけるスムーズな授業を遂行する。 ウ 外部や地域の教育力を活かした授業展開を積極的に実施する。	(2) アイ ・生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価80%以上[78.1%] ・インターンシップ出席率の維持[インターンシップに代わる職場見学[中止] ・デュアル実習出席率の維持[95%] ウ ・生徒学校教育自己診断「授業や部活動などで、保護者や地域の人と関わる機会がある」肯定的評価を維持[40.8%]	(2) ア 観点別評価の本格導入や、1人1台端末の活用の充実もあり、エンパワメントタイムの授業に加え、教科の授業でも参加体験型・対話型の授業を多く実施できている。 ・生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価86.9%に上昇（◎） イ コロナ禍の影響で縮小していたインターンシップやデュアル実習を元の規模に近づけて実施できた。 ・インターンシップ出席率99.4%（○） ・デュアル実習出席率94%の高水準継続（○） ウ 外部講師（特別非常勤）を積極的に活用できた。 ・生徒学校教育自己診断「授業や部活動などで、保護者や地域の人と関わる機会がある」肯定的評価49.1%に上昇（◎）

	<p>(3) 教職員の授業力の向上</p>	<p>(3) ア 計画的に授業公開週間を設定し、授業の工夫や授業方法・指導方法について、法定研修の研究授業等を活用しながら、教職員が互いに学び合う場をつくる。  イ 1人1台端末の導入にとまない、ICTを活用した授業をさらに充実させる。</p>	<p>(3) ア ・教職員学校教育自己診断「指導方法等についての検討」「授業内容について」「指導方法の工夫・改善」に関する項目の肯定的評価平均のアップ[56.9%]  イ ・生徒学校教育自己診断「コンピュータやプロジェクター利用・端末の利用」肯定的評価80%以上継続[85.2%] ・エンパワメントスクールアンケート「タブレットや電子黒板を使った授業のわかりやすさ」肯定的評価80%以上[79%]</p>	<p>(3) ア 法廷研修の研究授業も活用しながら授業公開週間を実施し、「授業の悩みを相談改善できた」「新学習指導要領に関わるパフォーマンス課題について学べた」との意見が得られた。一方で、教科内や教科縦断的な交流により、更に学び合う機会を望む声もある。 ・教職員学校教育自己診断「指導方法等についての検討」「授業内容について」「指導方法の工夫・改善」に関する項目の肯定的評価平均53.6%](△) イ 1人1台端末の本格導入にとまない、ICTを活用した授業の取組が進んだ。 ・生徒学校教育自己診断「コンピュータやプロジェクター利用・端末の利用」肯定的評価91.2%に上昇(◎) ・エンパワメントスクールアンケート「タブレットや電子黒板を使った授業のわかりやすさ」肯定的評価88.3%(◎)</p>
<p>2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 一人ひとりの生徒をしっかり把握し高校生活に定着させるための生徒指導と外部連携の充実  (2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実と生徒の居場所となる学校づくり  (3) 人権教育の推進</p>	<p>(1) ア 丁寧な遅刻指導、頭髪指導や服装指導等による規範意識や基本的生活習慣を醸成する。 イ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問により保護者との連携により信頼関係を築き、生徒理解につなげる。 ウ 中高連絡会の開催や入学当初の随時迅速な中高連携を実施し、一人ひとりを大切にする生徒指導に活用する。  (2) ア 要配慮生徒や課題がある生徒の状況把握と情報共有に努め、教育相談や生徒支援体制を充実させるとともに、スクールカウンセラー(S C)及びスクールソーシャルワーカー(S S W)との連携を強化し、要配慮生徒のケース会議を開く等、生徒支援を充実させる。 イ 子ども家庭センター等、外部機関との連携を進め、教育相談を充実させる。 ウ 昼休み等に、教育相談室等、生徒の居場所となる空間を提供し、不登校等の未然防止につなげる。 エ 学校行事、生徒会行事、部活動等、生徒の自主的活動を活発にし、生徒の高校生活の充実につなげる。  (3) ア SNS上やコロナに係る誹謗中傷を含めた生徒対象の人権学習を系統的、計画的に実施する。 イ 人権教育やカウンセリングマインドによる生徒指導、支援教育をテーマとした教職員研修を実施する。 ウ 中国等帰国生徒及び外国人生徒のアイデンティティを大切にしつつ、他の生徒との交流を進め(多文化研究部の発表等)、ともに学ぶ多文化理解教育を推進する。</p>	<p>(1) アイウエ ・懲戒生徒人数の減少[74人] ・中途退学者率5%以下[5.1%] ・欠席延人数の維持[6889人] ・遅刻延人数の維持[4387人]  (2) アイウ ・生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価70%以上[69.4%] ・教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備している」肯定的評価65%以上[63.0%] ・長期欠席者数の増加防止[39人] エ ・生徒学校教育自己診断「学校・自クラスが楽しい」の肯定的評価70%以上[68.7%] ・部活動加入率アップ[30%] ・体育祭、文化祭の生徒の出席率90%以上継続[体育祭91.9%・文化祭90.1%]  (3) ア ・生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価75%以上継続[76.9%] イ ・教職員研修年間3回以上[3回] ウ ・生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会が多い」肯定的評価50%以上継続[50.9%]</p>	<p>(1) アイウエ きめ細やかで粘り強い生徒指導や保護者との連携により、規範意識の醸成・基本的生活習慣の確立が継続できている。 ・懲戒生徒人数の57人(◎) ・中途退学者率4.3%に減少(◎) ・欠席延人数6968人(△) ・遅刻延人数5064人(△)  (2) アイ 要配慮生徒や課題がある生徒の情報を関係者で共有し教育活動全般にいかすことができるようになった。教育相談委員会と学年の連携が進み、迅速にケース会議を実施し外部機関との連携も行えた。今年度もマネジメント予算でS CとS S Wの増時間を継続した。 ウ 居場所づくりの一環として、教育相談室を週3回程度開室し、不登校の未然防止に努めた。 ・生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価77.6%に上昇(◎) ・教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備している」肯定的評価89.1%に上昇(◎) ・長期欠席者数39人(○) エ コロナ禍の影響が残る中、行事や部活動等において可能な限り生徒が自主的活動を行えるよう支援した。 ・生徒学校教育自己診断「学校・自クラスが楽しい」の肯定的評価79.3%に上昇(◎) ・部活動加入率35%にアップ(◎) ・体育祭出席率96.6%に上昇、文化祭出席率90.0%維持(○)  (3) ア 総合的な学習の時間等を活用し、系統的な人権学習を継続した。 ・生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価83.6%に上昇(◎) イ 人権教育、教育相談、支援教育に関する職員研修を実施した。 ・教職員研修年間5回実施(◎) ウ 文化祭発表、地域の小学校との交流等を実施。校外では府立外教と連携し、Wa i Wa i トーク等で生徒が活躍できた。また、進路実現や資格取得に向けた支援も継続し、英検1級合格者やT O E I C 900点以上の生徒も出た。 ・生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会が多い」肯定的評価65.2%に上昇(◎)</p>

## 府立布施北高等学校

<p style="text-align: center;"><b>3</b> キャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>(1) 卒業後を見据えた体系的なキャリア教育の取り組み</p> <p>(2) 地域等との連携強化</p>	<p>(1) ア 職業適性検査、インターンシップ、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学など見学や体験の機会を設け、生徒個々人の進路設計への意識を高める。</p> <p>イ 進路講演等を通じて、進路決定及び定着に向けた取組みを継続する。</p> <p>(2) ア コロナ禍の中でも、デュアルシステム協力企業・施設等との連携を継続し、持続可能な本校のデュアルシステムを追求していく。</p> <p>イ 地域とのつながりを発展させ、教育活動における地域とのかかわりを深める。</p> <p>ウ 地域の外部機関(東大阪市や中小企業家同友会や商工会議所等)や小・中・大との連携を強化する。</p>	<p>(1) アイ ・進路未定率 20%以下継続 [15.5%] ・学校幹旋就職内定率 80%以上継続 [84.5%] ・生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価 80%以上継続 [82.5%]</p> <p>(2) アイ ・デュアルシステム意見交換会の開催 [1回] ・デュアル地域協働本部の開催年間 3回以上 [3回] ・教員学校教育自己診断「デュアルシステム等地域連携を教育活動に生かしている」肯定的評価 85%以上維持 [87.0%]</p> <p>ウ ・教員による地域の外部機関のイベント、会合への参加 [1回]</p>	<p>(1) ア 卒業後を見据えた体系的なキャリア教育を実施し、多くの生徒が自己の夢や適性を見つめ、誠実にコツコツと自己実現に向けた努力を行えた。</p> <p>イ 進路講演会は3月に実施した。</p> <p>・進路未定率 20.1% (△) ・学校幹旋就職内定率 89%に上昇 (◎) ・生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価 85.6%に上昇 (○)</p> <p>(2) ア コロナ禍の影響が残る中、インターンシップを復活させ、デュアル実習は本来に近い回数で実施し、生徒の貴重な学びの場となった。</p> <p>・デュアルシステム意見交換会を地域学校協働本部と共催で1回実施した。(○) ・デュアル地域協働本部の開催年間 3回実施 (○) ・教員学校教育自己診断「デュアルシステム等地域連携を教育活動に生かしている」肯定的評価 89.1%に上昇 (○)</p> <p>ウ 地域連携を継続、小中学校との連携を深めることができた。</p> <p>・教員による地域の外部機関のイベント、会合への参加 4回 (人権交流・意岐部フェスタ・まちづくり委員会等) (◎)</p>
<p style="text-align: center;"><b>4</b> エンパワメントスクールの教育活動充実と積極的な情報発信</p>	<p>(1) 教育活動の充実</p> <p>(2) 積極的な情報発信</p>	<p>(1) ア HR活動、学年行事や課外活動を、生徒が主体的に活躍できる場を多くし、エンパワメントスクールの教育活動を充実させる。</p> <p>イ キャリアコーディネーター (CC) の活用</p> <p>(2) ア 中学校及び中学生、保護者向けにエンパワメントスクールの教育内容と魅力について発信する。</p> <p>イ 本校の活動状況を、ホームページ (HP) を活用して校外に発信する。</p> <p>ウ PTA・同窓会との連携を充実するとともに、学校行事への参加やPTA活動への参加を呼び掛け、活性化させる。</p>	<p>(1) アイ ・生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価 (エンパワメントスクール満足度) 80%以上 [78.5%]</p> <p>(2) ア ・広報を目的とした中学校訪問の継続 [64校+資料送付] ・学校説明会参加者総数 400人以上 [304人]</p> <p>イ ・HPのブログ更新の維持 [60回]</p> <p>ウ ・保護者学校教育自己診断における「授業参観や学校行事に参加」肯定的評価 40%以上 [未実施]</p>	<p>(1) ア 感染予防対策に留意しながら、各種学年行事 (遠足、修学旅行、カルタ大会、球技大会等) や課外活動、学校説明会等を実施し、生徒に活躍の場を与えることができた。</p> <p>イ 生徒の進路指導のサポートでCCを活用し、教員の負担軽減に効果があった。</p> <p>・生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価 (エンパワメントスクール満足度) 83.6%に上昇 (◎)</p> <p>(2) ア 全職員で、在校生の情報交換等を中心にした中学校訪問 (53校、東大阪市立中学校については、各校5回) を実施した。また、ケーブルテレビ、地域のショッピングモール、校長会や進路指導主事部会等で広報活動を行った。(◎) ・学校説明会参加者総数 479人に増加 (◎)</p> <p>イ HPのブログを活用した広報を充実させた。</p> <p>・更新回数 95回 (◎)</p> <p>ウ コロナ禍継続の中、3年ぶりに同窓会実行委員会を実施。一部のPTA活動を再開することができたが、各種行事への保護者参加制限は一部継続した。</p> <p>・保護者学校教育自己診断における「授業参観や学校行事に参加」未実施 (△)</p>
<p style="text-align: center;"><b>5</b> 教職員の働き方改革を進める</p>	<p>(1) 働き方改革</p>	<p>(1) ア 全庁一斉退庁日・夏冬の学校休業日の実施の徹底等、働き方改革を常に教職員に意識をさせ、仕事の効率化を図る。</p> <p>イ 時間外勤務の多い人の状況把握や声掛けをし、時間外勤務の平均時間の減少を図る。</p>	<p>(1) アイ ・時間外勤務の年間平均時間 360時間以下 [361時間 52分] ・月 80時間超過者の延べ人数の減少 [9人]</p>	<p>(1) ア 今年度より全職員に月毎の時間外勤務時間を配付し、自己の健康管理に努めるよう促した。また、会議のペーパーレス化や当番の見直し、デジ楽採点の導入等に着手した。</p> <p>・時間外勤務の年間平均時間 321時間 35分 (○) ・月 80時間超過者の延べ人数 15人 (△)</p>